



地域医療ネットワークの会

ち☆ネット!

令和元年(2019年)11月発行
地域医療ネットワークの会
聖マリアンナ医科大学病院
デジタルヘルスセンター事務局

「顔の見える地域連携」を目指した多職種での情報交換と学びの会
それが、地域医療ネットワークの会です!

令和元年9月28日 第37回 地域医療ネットワークの会 テーマ: DNARって何?

DNARとは・・・患者本人、または、患者の利益にかかわる代理者の意思決定をうけて心肺蘇生法をおこなわないということにも関わらず、終末期医療の差し控えなどと混合されることがないでしょうか。我々の働く、医療・介護の場で、問題に感じていることなどないでしょうか。

今回は、それぞれの現場で起きている問題や課題などをグループワークにより共有、解決に向けての糸口を話し合う機会としました。グループワークの後に、聖マリアンナ医科大学病院 脳神経内科 長谷川 泰弘先生より、聖マリアンナ医科大学病院におけるDNARの取り組みについてのお話を聴きました。

参加者数 64名

参加施設数 33施設

座長 地域医療ネットワークの会世話人

西川内科 胃腸科

西川 真人

聖マリアンナ医科大学病院

宇津宮 薫

グループワーク 「DNAR」に対して思う事

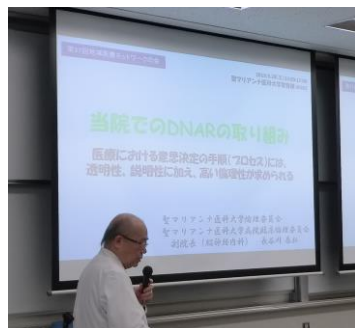
自分たちが働いているところで起きている事

全体発表

講演

聖マリアンナ医科大学病院での「DNAR」に対する取り組み

聖マリアンナ医科大学病院 脳神経内科 長谷川 泰弘先生



グループワークでは、急変時のDNARと ACP（アドバンス ケア プランニング）、BSC（ベスト サポートティブ ケア）などの言葉が、混在して使用されていない? 病院に入院している時に、DNARの方針だったのだけど、それは、元気になって自宅に退院してきても、DNARなの? 癌や障害で療養している患者・利用者さんをサポートしている参加者からは、DNARって、あまり使わない言葉のような気がするけど・・・心不全の高齢者には、DNARの方針ということ进行うかしら・・・他の病院が発行したDNAR書式は有効なの? なんだか 不明確でもやもやするなあ。という意見交換がありました。

グループワークを終えて、長谷川先生のお話を伺いました。

「医療における意思決定の手順(プロセス)には、透明性、説明性に加え、高い倫理性が求められる」本来DNAR指示とは、急変時に心肺停止となっても心肺蘇生法を実施しないという患者の意思にしたがって医師が出すオーダーのことであるということの再確認をしました。また、他施設で発行されたDNAR指示については、そのプロセスが不明であり、その患者が救急搬送された場合は、搬送先の病院で再度確認が必要だろうというお話があり、参加者皆、もやもやと混乱していた頭が、少しずつ、すっきりしてくるのを感じた場面でした。まだまだ、現場では混迷する場面もあるかと思いますが、私たちは、患者・利用者さんを擁護する立場にあるのだと認識して仕事に携わろうと思いつつ、帰路につきました。